

1. 件名：「浜岡原子力発電所 3号機及び4号機の地震等に係る新規規制基準適合性  
審査に関する事業者ヒアリング(119)、(152)」

2. 日時：令和4年4月20日（水）13時30分～14時10分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、  
海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来主任技術研究  
調査官※、磯田係員、松末技術参与、杉野統括技術研究調査  
官、山下技術研究調査官

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員  
中川原子力土建部長 他5名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<本年3月28日に受取済み>>

- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（コメント回答）
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（補足説明資料）
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（コメント回答）データ集

時間	自動文字起こし結果
0:00:06	原子力規制庁のサグチですけども、
0:00:08	それではこれからですね、浜岡原子力発電所、
0:00:12	基準津波の策定後プレート間地震の津波評価についてヒアリングを行いたいと思いますよろしくお願ひいたします
0:00:22	中部電力の天野でございます。昨年 12 月 17 日に開催されました第 1020 回審査会合におきましてご説明させていただいた、
0:00:32	内容についてコメントいただいた部分を、
0:00:36	回答作って参りましたので本日ご説明をさせていただきたいと思ひます。
0:00:41	資料の方は、3 月 28 日に提出済みでしてコメント回答の資料等補足説明資料あとデータ集と、
0:00:50	いう三種類になってございます。説明時間およそ 30 分程度いただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。
0:01:00	中部電力の加藤です。
0:01:01	浜岡原子力発電所基準津波の策定のうち、プレート間地震の津波評価についてのコメント回答について説明をいたします。
0:01:09	まず 3 から 8 ページですがこれまでの審査会合でいただいたコメント一覧表で、9 ページが第 1020 回審査会合のコメント一覧表です。
0:01:18	前回会合では六つのコメントをいただきました。
0:01:21	読み上げますが、No.1。
0:01:23	超滑り域の深さの設定とプレート境界に関する地震学的知見との関係として、日本海溝の検討に基づいた土木学会 2016 の特性化方法によるモデルの超滑り域の深さの設定と、
0:01:35	南海トラフのプレート境界に関する地震学的知見との関係について整理すること。
0:01:40	ナンバー2。
0:01:41	日本海溝の手法を用いたモデルによる妥当性確認として、日本海溝の手法を用いたモデルとの比較は、検討波源モデルの設定の段階で行うこと。
0:01:50	また滑り量分布の設定方法等のモデル設定としての妥当性を確認するため、比較にあたっては、滑り域、ライズタイム、破壊伝播速度、破壊開始点の条件をそろえること。
0:02:01	また日本海溝の津波評価手法②③の滑り量設定に関する記載を適正化すること。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:07	No.3。
0:02:08	検討波源モデルのパラメータスタディの方法として、概略パラメータスタディを滑り域の位置の不確かさの考慮について、滑り域の位置に合わせて、破壊開始点の位置が変化する影響も踏まえ、
0:02:19	敷地への影響が大きい滑り域の位置を抜けがない形で選定できていることを示すこと。
0:02:24	また滑り量 37メートルとライズタイム 60 秒の組み合わせは、さらなる不確かさの考慮ではなく、詳細パラメータスタディの中で検討すること。
0:02:32	その際、ライズタイム 60 から 120 秒の間のパラメータスタディも行うこと。
0:02:37	長与内閣府の最大クラスモデルとの比較分析として設定した波源モデルと内閣府の最大クラスモデルとの違いをわかりやすくセールス整理すること。
0:02:47	また両者の破壊開始点などの条件をそろえて津波評価を実施し、評価結果を比較して示すこと。
0:02:53	No.5、駿河トラフのプレート形状に関する知見として、駿河トラフ下に沈み込むフィリピン甲斐プレートの形状に関する知見、松原衛藤李 2021 について、地震動津波評価への影響を示すこと。
0:03:05	No.6 堆積当時の地球を想定した津波シミュレーションとして、敷地の津波堆積物の堆積当時の地形を想定した津波の数値シミュレーションを行い、
0:03:15	谷地形によって津波が増幅して遡上することを解析的に示すこととなっています。
0:03:21	10 ページは本日の説明内容です。
0:03:23	二つ目の○以降ですが、本日は初めにプレート間地震の津波評価の全体を、ナンバー1 から 4 のコメント回答も含めて説明し、その後 No. 56 コメントの回答について個別に説明いたします。
0:03:36	11 ページはコメント回答の概要です。
0:03:39	内容につきましては資料の中で説明いたします。
0:03:42	12 ページが目次で、13 ページからプレート間地震の津波評価について説明します。
0:03:48	14 ページは前回もお示ししましたが、プレート間地震の津波評価の全体概要になりまして、コメント回答に伴う変更を反映しています。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:03:57	15 ページは、プレート間地震の津波評価の流れを左から右の順に示した検討フローに今回の変更を反映したものになります。
0:04:05	背景が黄色の範囲が変更箇所となります。
0:04:09	16 ページにはプレート間地震の津波評価の全体像とコメント回答との関係をお示しして、
0:04:15	左側の評価フローに対して、右側の確保、コメント回答がどこに対応しているかを表しています。
0:04:21	次の 17 ページから 3 章の終わりまでは、前回の説明から変更ありませんが、並行して説明しております津波堆積物調査の状況を反映しまして、津波堆積物関連の図については、
0:04:33	敷地地点の標高を 8 から 10 メートルから 4 から 6 メートルに変更しております。
0:04:39	ここで資料の方変わりました補足説明資料の 38 ページをお願いします。
0:04:53	補足の 38 ページですが、今回津波評価については、
0:04:57	先行サイトの審査状況を勘案して、水位低下時間の算出方法について変更しました。
0:05:03	取水塔の水位低下時間の算出については、取水塔地点のガイカイ水位が、取水塔呑口下端レベルを一時的に上回り、かつその時間が短い場合には、
0:05:13	取水槽内の水位は回復しないと考えられます。
0:05:16	そこで左側に示すように、外界水位を一定値とした管路解析による取水槽内水の時間変化に関する検討を実施し、
0:05:24	その結果に基づき、右側の上の図に示すように、一時的な水位上昇時間のうち、ガイカイ水位が取水塔呑口下端レベル+1 メートルを上回る時間が、
0:05:34	2 分未満の場合には、取水槽内の水位が回復しないとして、その前後の水位低下時間を合算して算出することとしました。
0:05:43	この考え方の変更による評価結果への影響を、次の 39 ページ以降にお示ししていますが、
0:05:49	39 ページでは今回の考え方による算出を①の合算して算出する場合として、表中では黄色で、
0:05:57	前回までの考え方による算出を②の合算せずに算出する場合として示しています。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:04	両者を比較しますと、パラメータスタディにより選定されるケースと、その水位低下時間に影響がないことを確認できました。
0:06:11	以上のように、短時間の水位上昇を排除するように、算出方法の適正化を図りましたが、ケース選定においては、短時間の水位上昇の影響がないことを確認しております。
0:06:22	もう一度コメント回答資料のほう戻っていただきまして、79 ページをお願いします。
0:06:37	79 ページからは、検討波源モデルの津波評価のうち、検討波源モデルの設定について説明します。
0:06:43	81 ページから 89 ページまでは前回資料の再掲となりますが、
0:06:48	81 から 83 ページは、検討波源モデルの設定の考え方、及び今期再現モデルとの間、関係性について、
0:06:56	84 ページと 85 ページは、検討波源モデルにおける保守的設定について。
0:07:01	86 から 89 ページは、検討波源モデルの設定において適用した特性化方法についてお示ししています。
0:07:08	89 ページには特性化方法の当社の津波評価への反映についてお示しておりますが、前回会合では土木学会 2016 の特性化方法によるモデルの超滑り域の深さの設定と、
0:07:20	南海トラフのプレート境界に関する地震学的知見との関係について整理することというコメントをいただきました。
0:07:27	コメントを受けまして、90 と 91 ページに、
0:07:30	土木学会 2016 による超滑り域の設定深さと、地震学的知見との関係を今回整理しました。
0:07:37	90 ページですが、南海トラフのプレート境界は、左の図と下の箱書きの通り、構造、地震活動、地殻変動等の知見に基づき、
0:07:46	全部中部深部の三つの領域に分けられるとされています。
0:07:50	このうち深さ約 10 から 25 キロの中部の領域は、M8 クラスの既往地震の、
0:07:56	震源震源域と対応する固着が強い領域であり、
0:08:00	深さ約 10 キロ以浅の浅部の領域は、
0:08:02	定期的が発生している全部長低周波地震等により固着が弱くなっている領域とされます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:09	一方、防災科学技術研究所 2020 によると、右の図のように、浅部の領域で発生するとされるピンクの点で示される浅部超低周波地震は、
0:08:18	中部の領域にも一部分布し、M8 クラスの既往地震の震源域と対応する領域と一部重なり合っています。
0:08:26	これらの図に赤破線で示す、土木学会 2016 による超滑り域の設定深さ
0:08:32	解放軸から津波断層域の概ね 3 分の 1 の深さの領域は、
0:08:36	超滑り域の範囲を全部の領域を超えて、M町クラスの既往地震の震源域と対応する領域の内部まで拡大し高さとなっており、
0:08:45	浅部超低周波地震分布を概ね包絡する関係となっています。
0:08:50	91 ページですが、
0:08:52	左の図表の通り、国内外のM9 クラスの巨大地震が発生した沈み込み体において、
0:08:58	青色の浅部断層の領域の深さと、赤色の津波断層域の概ね 3 分の 1 の深さとの関係を整理した結果、
0:09:06	南海トラフ同様、津波断層域の概ね 3 分の 1 の深さ浅部断層の領域を超えて、
0:09:12	既往地震の震源域と対応する領域の内部まで拡大した深さとなっていることを確認しました。
0:09:18	また観測記録のある日本海溝において、右の図に示すように、赤破線の津波断層域の概ね 3 分の 1 の深さとピンクの点で示す浅部超低周波地震の分布等を比較した結果、
0:09:30	南海トラフ同様津波断層域の概ね 3 分の 1 の深さは全部超低周波地震分布を概ね包絡する関係となっていることを確認しました。
0:09:40	92 ページからは再掲ですが、
0:09:43	92 ページは、ライズタイムの設定。
0:09:45	93 ページから 126 ページまでは、検討波源モデル A から D 能勢詳細設定についてお示しをしております。
0:09:54	127 ページと 128 ページをお願いします。
0:10:05	120728 ページは、検討波源モデルの設定の結果をお示ししております。
0:10:11	次の 129 ページをお願いします。
0:10:15	129 ページからは、No.2 コメント回答に関連しております、日本海溝の手法を用いたモデルによる検討波源モデル設定の妥当性確認に関して説明いたします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:25	129 ページは検討方針ですが、検討波源モデルの滑り量分布の設定方法等モデル設定の妥当性確認として、
0:10:33	日本海溝において検討されたM9 クラスの津波評価手法を用いて設定した。
0:10:38	右の緑枠内に示す、日本海溝の津波評価手法モデル、①から③の滑り量分布、
0:10:45	地殻変動量分布との比較を行いました。
0:10:48	ここで左側の検討波源モデルのうち、検討波源モデルBは、検討波源モデルAに対して、分岐断層への破壊形態を考慮したモデルであることから、
0:10:58	検討波源モデルAで代表して検討しました。
0:11:01	また右側の日本海溝の津波評価手法モデルのパラメータは、前回会合でも説明しました通り、
0:11:08	日本海溝において検討されたM9 クラスの、
0:11:11	津波評価手法及びパラメータを用いて設定しましたが、
0:11:14	検討対象領域が日本海溝ではなく、南海トラフとなることを踏まえ、
0:11:19	波源域に関するパラメータには、南海トラフの知見を反映しました。
0:11:24	また下の箱書き。
0:11:26	今回No.2 コメント回答に伴う変更点についてですが、
0:11:29	日本介護の手法を用いたモデルによる妥当性確認は、検討波源モデルの設定の段階で行うこととし、滑り量分布の設定方法等のモデル設定としての妥当性を確認するため、
0:11:41	町を滑り域を滑り域の位置に関する条件をそろえた上で、動的パラメータの影響がない滑り量分布、及び、
0:11:49	地殻変動量分布を比較することとしました。
0:11:53	130 ページには、日本海溝の津波評価手法モデルの設定をお示ししています。
0:11:58	なお日本海溝の手法を用いたモデルの滑り量分布の設定方法の詳細は、前回会合でも説明した通りですが、補足説明資料6の7章に記載しております。
0:12:09	131 ページには、検討波源モデルと日本海溝の津波評価手法モデルについて、
0:12:15	滑り量分布を左右で比較して示しています。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:18	その結果、上の表に示す通り、津波への影響が大きい町をⅢ期の滑り量について、
0:12:24	検討波源モデルA、Dの滑り量は、日本海溝の津波評価手法モデルよりも大きい設定となっていることを確認しました。
0:12:33	132 ページには、検討波源モデルと、日本海溝の津波評価手法モデルについて、
0:12:38	敷地への津波影響の大きい東海地域の地殻変動量分布を左右に比較して示します。
0:12:44	図は濃い赤色ほど大きな隆起量をあらわしています。
0:12:49	133 ページは、図中の 11'から 33'の断面について、
0:12:54	地殻変動量分布をグラフで比較したものになります。
0:12:58	いちいち断面が敷地を通る断面なり
0:13:02	比較の結果、地殻変動量は全体的に概ね同程度ですが、町を滑り域の滑り量が大きい、黒線の検討波源モデルへと赤線の検討波源モデルでの
0:13:12	地殻変動量は、津波発生効率の高い、トラフ軸付近において、日本海溝の津波評価手法モデルよりもやや大きくなっていることを確認しました。
0:13:22	下の箱書きですが、これらの比較結果から、検討波源モデルの滑り量分布及び地殻変動量分布は、日本海この手法を用いたモデルと同程度以上となっていることを確認し、
0:13:34	検討波源モデルの滑り量分布の設定方法等モデル設定の妥当性を確認しました。
0:13:40	なお滑り量分布の設定方法等モデル設定の違いによる津波評価への影響確認として、日本海溝の津波評価手法モデルの滑り域の位置のパラスタも実施して影響を確認しています。
0:13:52	こちらは補足説明資料の6-7章に記載しています
0:13:57	134 ページは、検討波源モデルの設定結果の再掲で、
0:14:01	これらの検討波源モデルについて、概略詳細パラメータスタディを実施します。
0:14:07	135 ページからは、検討波源モデルのパラメータスタディについて説明します。
0:14:12	137 ページをね
0:14:17	こちらは検討あげモデルのパラメータスタディの検討概要ですが、
0:14:21	4. 一章で設定した検討波源モデルに対して、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:14:24	検討フローの通り、概略パラスタ、詳細パラスタを実施し、敷地への影響を検討しました。
0:14:31	ここで下の箱書きにNo. 3 コメント回答に伴う変更点を記載しておりますが、
0:14:36	この内容については次の138ページに整理しております
0:14:41	138ページには、このパラメータスタディに関する変更点について、
0:14:45	左に前回のフロー、右に今回のフローを示し、変更箇所アンダーラインを引く形で比較しています。
0:14:52	上の箱書きの2ポツ目ですが、概略パラスタに関する変更について、左の前回までは破壊伝播を考慮して検討していましたが、右の今回は、
0:15:03	破壊開始点の影響外1が影響しないよう、同時破壊として検討することに変更して、基準断層モデルを選定するとともに、敷地への影響が最も大きいケースのほか、
0:15:14	影響が同程度のケースも基準断層モデルとして選定することとしました。
0:15:19	また次の詳細パラスタに関する変更について、
0:15:22	前回までは、ライズタイム120から300秒詳細パラスタにおいて、
0:15:27	ライズタイム60秒を、さらなる不確かさの考慮において、ステップを踏んで検討していましたが、
0:15:32	今回はライズタイム60から300秒を、詳細パラスタにおいて検討するとともに、
0:15:38	ライズタイム60から6、120秒の間のパラスターを網羅的に実施することとし、
0:15:43	ライズタイム90秒の検討を追加しました。
0:15:48	139ページは、前回もお示ししましたが、
0:15:51	プレート間地震の津波評価の変遷になります。
0:15:55	今回の説明における変更を右側に加えております。
0:15:59	140ページですか。
0:16:01	こちら今回実施した概略詳細パラスタ結果の分析として、
0:16:06	滑り域の位置ごとの敷地前面の最大上昇水位の比較をグラフに示しています。
0:16:12	また右側のグラフは、上段が前回までの破壊伝播を考慮したパラスタ結果。
0:16:18	中段が今回の同時破壊とした概略パラスタ結果。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:22	下段が詳細パラスタ結果になります。
0:16:24	上の箱書きの2ポツ目の通り、中段に示す同時破壊として検討した概略パラスタ結果の推移から、
0:16:31	下段に示す詳細パラスタ結果の推移への増加は、いずれの滑り域の位置においても、概ね同程度であることを確認し、
0:16:39	同時破壊として検討したがイラクパラスター結果によって、敷地への影響が最も大きいケース及び、それと同程度のケースを基準断層モデルとして選定した、今回の方法が妥当であることを確認しました。
0:16:52	141 ページには、
0:16:54	津波評価結果の変更を左右にお示ししています。
0:16:58	左右の図を比べていただくとわかる通り、
0:17:00	最大水位分布に表れるような違いはなく、
0:17:04	津波津波評価結果に大きな変更はないものの、敷地前面の最大上昇水位はTP + 22.7メートル、
0:17:11	34号取水塔の水位低下時間は13.5分となりました。
0:17:17	142ページからは、概略パラメータスタディについて説明します。
0:17:22	143ページは、検討方針になります。
0:17:25	検討の流れ自体はこれまでと変わりありませんが、下の箱書きの通り、コメント回答に伴い、同時破壊の条件で検討することに変更するとともに、
0:17:35	敷地への影響が最も大きいケースのほか、影響は同程度のケースも選定することとしました。
0:17:42	140445ページは、概略パラスタの結果になります。
0:17:46	144ページは、水位上昇側の結果で、概略パラスタの結果、
0:17:51	表に赤色で示すように、敷地への影響が最も大きいケース及び、それと同程度のケースを基準断層モデルとして選定しました。
0:18:00	145ページは水位下降側の結果ですが、
0:18:03	同様に基準断層モデルとして選定したケースを表に、青色で示しております。
0:18:08	選定した基準断層モデルの数は、上昇側下降が合わせて、
0:18:13	前回の4モデルに対して、中にモデルとなりました。
0:18:17	これらの各検討波源モデルの概略パラスタ結果の詳細は、
0:18:21	146ページから154ページに示しております、
0:18:25	ここでは検討あげモデルAとDを例に、内容を説明します。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:30	146 ページは、検討波源モデル A の水位上昇側の検討結果になります。
0:18:37	今日は、上から下にかけて検討した、滑り域の位置を東西に振ったケースを並べています。
0:18:43	水位上昇側では、敷地前面、
0:18:45	1 から 5 号取水槽の水位を示しており、
0:18:48	敷地前面の最大上昇水位が最も大きいケースを太字で示しています。
0:18:54	左側の滑り域が 1 ヶ所のケースでは、東出 40 キロ移動したケースが敷地への影響が最も大きいことから、基準断層モデルとして選定し、
0:19:02	またこれと同程度の値となった、赤でハッチングしたケースについても、基準断層モデルとして選定することと、
0:19:10	右の滑り域が 2 ヶ所のケースについては、二つの滑り域を 20 キロずつ独立して動かした検討の結果、
0:19:17	他のケースの影響を下回っていることから、滑り域を東西へ約 10 キロ移動させる検討を実施せずに、他のケースで代表できると判断しました。
0:19:28	149 ページには、取水槽における影響が比較的大きい検討波源モデル T の結果をお示しして、
0:19:36	左側の滑りが 1 ヶ所のケースで、
0:19:39	敷地への影響が最も大きい東 60 キロ移動したケースを基準断層モデルとして選定し、
0:19:45	これと同程度の値となった、赤でハッチングしたケース。
0:19:48	基準だ。
0:19:52	150 ページは、検討上げモデル A の水位下降側の検討結果になり、
0:19:58	こちらは 34 号取水塔の水位低下時間を示しておりますが、
0:20:02	左側の滑り域が 1 ヶ所のケースは、他の検討ケースよりも影響が小さい結果となっています
0:20:09	右側の大杉理事が 2 ヶ所のケースについて、
0:20:12	2 ヶ所の滑り域を東西 20 キロずつ移動させた検討の結果、
0:20:17	敷地に影響の大きい黒枠で囲ったケースを選定し、このケースを中心に、さらに 2 ヶ所の滑り域を東西へ約 10 キロずつ独立に移動させて、
0:20:27	市野駅を検討することとし、
0:20:30	153 ページお願い
0:20:34	153 ページには、検討波源モデル D の水位下降側の結果をお示しして今

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:39	こちら右側の大杉理事が2ヶ所のケースについて、2ヶ所を滑り域を東西へ20キロずつ移動させ、
0:20:46	機能影響の大きいケースを選定し、
0:20:48	この記述を中心に、さらに2ヶ所のスヴィニキを東西へ約10キロずつと
0:20:54	キョウケンと
0:20:56	154 ページでは、
0:20:58	水位下降側の検討のうち、
0:21:00	水位低下時間の影響が大きい検討波源モデルA、Dの大杉力が2ヶ所のケースについて、
0:21:07	敷地に影響の大きいケースを中心とし、2ヶ所の滑り域を東西へ約10キロずつ独立に移動させて検討しました。
0:21:15	その結果、表中に青の太字で示す敷地への影響が最も大きいケースを基準断層モデルとして選定し、
0:21:22	またこれと同程度の値となった、青のハッチングのケースについても基準断層モデルとして選定しました。
0:21:29	155 ページは、敷地前面における最大上昇水位の比較。
0:21:34	156 から 160 ページには、
0:21:37	前提した基準断層モデルの計算結果をお示ししています。
0:21:42	161 ページと 162 ページには、概略パラスタ結果からプラスの結果の一覧を再建しています。
0:21:49	選定した基準断層モデルについては、163 ページ以降で詳細パラスタを実施しました。
0:21:56	163 ページからは詳細パラスタについて説明
0:22:00	164 ページは検討方針。
0:22:03	165 ページには、設定条件をお示ししています
0:22:07	No. 3 コメント回答に伴う変更点として、
0:22:11	赤字の通り、滑り量 37メートルとライズタイム 60 秒の組み合わせを、詳細パラスタの中で考慮するとともに、
0:22:18	ライズタイム 60 から 120 秒の間のパラメータスタディを網羅的に実施しました。
0:22:25	166 から 171 ページは、ライズタイム滑り量とライズタイム、滑り量とライズタイムの組み合わせに関する資料について、これまで説明したも

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	のようになりますが、今回のコメント回答に伴い、前回まで記載していた、さらなる不確かさ等の表現は修正しました。
0:22:42	172 ページには、詳細パラスタ結果の一覧を示します。
0:22:46	検討の結果、各評価地点において最も影響の大きい結果となったケースを赤色、もしくは青色で表示しています。
0:22:54	各基準断層モデルの詳細パラスタ結果は 173 から 184 ページに示していますが、
0:23:00	173 ページの基準断層モデル 1-1 の水位上昇側の結果を例に内容を説明いたします。
0:23:07	173 ページは、
0:23:09	左側のライズタイムの検討の結果、
0:23:12	60 秒のケースで影響が最も大きいことから、このケースに対して、さらに右側の破壊伝播速度及び破壊開始のパラスタを実施しました。
0:23:22	右の表では、網羅的な検討の結果、最も影響の大きいケースを赤色でハッチングしております。
0:23:28	ページが、ページ飛んでいただきまして 185 ページと 186 ページになりますが、
0:23:34	こちらでは、
0:23:35	各評価地点で最も影響が大きい詳細パラスタの最大ケースの計算結果をお示ししております。
0:23:42	次の 187 ページでは、敷地前面の影響が最も大きい基準断層モデル 1 の 1 について、敷地前面における最大上昇水位の比較を示しております。
0:23:53	188 ページは、水位上昇側の概略詳細パラスタ結果の分析として、
0:23:58	津波評価結果の比較を示しています。
0:24:01	ピンクの概略から赤の詳細への水の増加は、いずれの基準断層モデルにおいても概ね同程度であり、概略パラスタ結果によって敷地への影響が最も大きいケース。
0:24:12	及びそれと同程度のケースを基準断層モデルとして選定し、
0:24:16	それに対して詳細パラスタを検討した方法が妥当であることを確認しました。
0:24:22	189 ページでは、水位下降側の分析について同様に確認しております。
0:24:27	190 から 195 ページは、各パラメータスタディ因子の津波水位への影響分析を示しております
0:24:36	196 ページには、詳細パラスタ結果の一覧を再掲しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:44	次に 197 ページからですが、
0:24:46	No.4 コメント回答に関連する 5 章、内閣府の最大クラスモデルとの比較分析について説明いたし
0:24:54	199 ページが、検討方針になります
0:24:59	内閣府の最大クラスモデルと検討波源モデル A のうち、敷地前面の津波高が最大となったケースとのパラメータ設定の違いを左右の表に示しておりますが、
0:25:09	左の内閣府モデルに対して、右の検討波源モデル A の最大ケースは、赤字で示すように、
0:25:16	的不確実さである、破壊開始点の
0:25:19	利用分布の設定として、敦賀湾内の町を滑り域の滑りを設定していること、①、
0:25:25	町を滑り域を III-1 を東 40 キロさせていること、丸 2 の 2 点から、2 点が異なっています。
0:25:33	ここでは内閣府モデルと検討上げモデル A の最大ケースと滑り量分布の違いを比較して示すこと。
0:25:40	両者の破壊開始点の条件
0:25:44	すり R O V 滑り量分布の設定の違い、①と②が評価結果に与える影響について分析を行いました。
0:25:52	200 ページは、滑り量分布の比較になります
0:25:56	下の検討波源モデル A は、植野内閣府モデルに対して、
0:26:00	敷地への影響の観点から、青破線で示す駿河湾内のトラフ軸付近に、町を滑り域の滑り量を設定するとともに、
0:26:07	黒破線で示す滑り域の位置を移動させています。
0:26:11	201 ページでは、
0:26:13	二つのモデルの滑り量分布の違いによる影響を定量的に確認するため、
0:26:18	両者の破壊開始点の条件を、検討波源モデル A の最大ケースのもの、P 4 にそろえて、津波評価を実施し、評価結果の分析を行いました。
0:26:28	ここで検討あげモデル A の最大ケースの滑り量分布において、①、駿河湾内に長を滑り域の滑りを設定していること。
0:26:36	②を滑り域位置を東 40 キロ移動させたことによる影響を確認するため、
0:26:42	検討波源モデル A に関する津波評価では、①②の設定をステップを踏んで考慮した三つの波源モデルを設定しました。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:52	202 ページにはそのステップを踏んで考慮した三つのモデルの滑り量分布をお示ししております。
0:26:59	203 ページが津波評価結果の比較になります。
0:27:03	左から順に、内閣府の最大クラスモデルの破壊開始点を P4 としたものの、検討波源モデル A について、内閣府モデルと同等としたもの。
0:27:12	検討上げモデル A に①のみを考慮したものの。
0:27:16	右端は①②ともに考慮したものを記載しており、
0:27:20	敷地前面水位は内閣府モデルと同等なモデルで、22.1 メートル。
0:27:25	①を考慮したものが 22.6 メートル。
0:27:28	①②ともに考慮したものが 22.7 メートルであり、
0:27:32	①を考慮することによる影響は+0.5 メートルと。
0:27:36	②を考慮することによる影響は+0.1 メートルとなり、
0:27:40	検討波源モデル A による津波評価は、浜岡敷地への津波影響の観点から、より幅広く不確かさを考慮していることを確認しました。
0:27:49	204、4 ページは、敷地前面における最大上昇水位の比較。
0:27:54	205 ページはまとめとして、計算条件の検討フローに計算結果を併記したものを示しています。
0:28:02	206 ページからは、プレート間地震の津波評価結果のまとめになりますが、内容は繰り返しとなりますので説明は割愛いたします
0:28:10	212 ページをお願いします。
0:28:18	212 ページからは No. 5 コメント回答するがトラフのプレート形状に関する知見について説明いたします。
0:28:26	213 ページは検討概要です。
0:28:29	前回会合では、駿河トラフ下に沈み込むフィリピン甲斐プレートの形状に関する知見、松原徹 2021 について、地震の津波評価への影響を示すこととのコメントをいただき、
0:28:40	今回東海地域のプレート境界の形状を推定した新たな知見について、
0:28:45	1 研究成果ではありますが、津波評価への影響の確認を行い、
0:28:49	津波評価に影響のある海域において、両者は概ね整合していることを確認しました。
0:28:54	なおこちらは地震動評価の方の回答内容が重複と重複しておりますので詳細な説明は割愛いたしますが、
0:29:02	次の 214 と 215 ページは、
0:29:05	松原 T a l l 2021 の内容になります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:09	216 ページは、
0:29:11	当社がフィリピン回プレート形状を参照している内閣府 2012 の内容になります。
0:29:17	217 ページは、両者の比較になりまして、内閣府と松原の知見が概ね整合していることを確認しています
0:29:26	218 ページは、
0:29:28	左上の平面図に示す五つの断面位置について、内閣府と松原のプレート境界の断面を比較したのになります。
0:29:36	黒野内閣府モデルについて、ピンクの松原と比較すると、津波評価に影響のある海域において、両者は概ね整合していることを確認しました。
0:29:46	219 ページからは、No.6 コメント回答堆積当時の地形を想定した津波シミュレーションについて説明いたし、
0:29:55	220 ページは検討概要です。
0:29:58	前回会合では、敷地の津波堆積物の堆積当時の地形を想定した津波の数値シミュレーションを行い、
0:30:04	谷地形によって津波が増幅して遡上することを解析的に示すこととのコメントをいただき、
0:30:11	今回コメント回答では、当時の正確な地形を推定することは困難ではあるものの、
0:30:17	発電所開発前の地形とボーリング調査データから、一定の仮定に基づき、堆積当時の地形を想定し、
0:30:23	津波の数値シミュレーションを実施した結果、
0:30:26	谷地形によって津波高が増幅して遡上することを解析的に確認しまし
0:30:32	221 ページは、敷地の津波堆積物の標高の確認結果。
0:30:37	前回 4 月 4 日のヒアリングでご説明した。
0:30:39	追加調査の結果を反映したのになり、
0:30:42	現地調査において、津波堆積物と評価した約 6000 年前のイベント堆積物のうち、
0:30:48	敷地東側のイベント堆積物の標高の方が高く、堆積当時の海面高度は現在よりも約 5 メートル高かったことを考慮すると、
0:30:57	堆積当時の標高は 4 メートル、
0:31:00	津波堆積物から推定される津波高は東北沖地震等による津波の最大遡上高と津波堆積物の分布標高の差が約、
0:31:10	うまい。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:31:10	約 4 から 6 メートルと推定
0:31:15	222 ページは、イベント堆積物の堆積当時の敷地周辺地形の再掲で、
0:31:20	イベント堆積物の大好き当時の約 6000 年前の敷地周辺地形は、現在と大きく異なっており、
0:31:27	正確に推定することは困難とか。
0:31:30	223 と 224 ページは、前回資料の再掲ですが、
0:31:35	土木学会 2016 の評価手法に基づく津波増幅効果の検討についてを締め
0:31:42	225 ページは、前回実施の数値シミュレーションに基づく津波増幅効果の検討の方針です。
0:31:49	先ほど説明しましたように、
0:31:51	津波堆積物の堆積当時の地形を正確に推定することは困難ですが、
0:31:56	山谷の大きな位置関係は、
0:31:58	基盤が反映されたものであり、当時から大きく変わらないと考えて、
0:32:02	発電所開発前の地形とボーリング調査データから、一定の仮定に基づき、ダイセキ当時の地形を想定し、
0:32:09	数値シミュレーションに基づ
0:32:11	による津波増幅効果を検討しました。
0:32:15	当時の地形モデルは、
0:32:16	左の表に示すように、発電所開発前地形をベースとして、津波堆積物調査ボーリングに基づく堆積当時から現在までの堆積層の厚さ、
0:32:26	及び当時の海水準を考慮し設定しました。
0:32:30	また波源モデルには、遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルを用いることとし、
0:32:35	地形モデル以外の計算条件は、二章の痕跡再現モデルの検討と同様としました。
0:32:42	226 ページには、地形モデルの設定について示しております。
0:32:47	左下の図で説明しますが、まず①発電所開発毎月をベースとし、
0:32:53	②砂丘河川や人工改変がなされた地形は、イベント堆積物の堆積当時に存在しなかったと考えて取り除きました。
0:33:01	さらに③として、タニ地形周辺のボーリングに基づき、堆積当時から現在までの堆積層の厚さの平均値、約 20 メートル分を一律引き下げ、
0:33:11	T P マイナス 10 メートルで、現在の海底地形にすりつけました。
0:33:16	最後に④として、海水準を杉山ほか 1988 に基づき、約 5 メートル上昇させました。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:24	227 ページは、堆積当時約 6000 年前の地形を想定した津波の数値シミュレーションの結果で、
0:33:31	左は最大水位上昇量分布で、図中の点①から⑨の時刻歴水位をとったものが右のグラフになります。
0:33:39	これらの図から、谷地形によって津波高が増幅することを確認しました。
0:33:44	以上より、当時の正確な地形を推定することは困難ではあるものの、
0:33:49	発電所開発前の地形とボーリング調査データから、一定の仮定に基づき、堆積当時の地形を想定し、津波の数値シミュレーションを実施した結果、谷地形によって津波高が増幅して遡上することを解析的に確認しました。
0:34:05	コメント回答資料の説明は以上になりまして、引き続き補足説明資料をお願いします。
0:34:10	2 ページ目と 3 ページ目をお願いします。
0:34:21	こちら目次になっておりますが、基本的な内容は前回から変わっておりませんで、5 の 4 章に土木学会 2016 モデルの津波評価を入れておまして、
0:34:32	6-7 章に日本海後の手法による妥当性確認の関連内容を入れ込む構成としております。
0:34:40	最後に、ナンバー2 のコメント回答に伴う、6-7 章の変更について、575 ページをお願いします。
0:34:55	575 ページですが、
0:34:57	日本介護の手法による妥当性確認については、No.2 コメント回答で、日本海溝の津波評価手法モデルとの比較を、波源モデル設定の段階で条件を合わせて実施するよう変更したことに伴い、
0:35:09	ライズタイムの設定に関する記載を 60 秒から 150 秒に変更しております。
0:35:15	また日本海溝の津波評価手法モデル、②③について背景領域を設定しないモデルであることを明確にし、
0:35:22	波源モデルの図表も説明に合わせて修正をしております。
0:35:25	説明につきましては以上となり、
0:35:31	はい、規制庁佐口ですけども、ご説明ありがとうございました。
0:35:36	ちょっと私の方から幾つか、
0:35:40	確認をさせていただき、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:43	まずう
0:35:45	本編、コメント回答の本編なのですが、
0:35:49	これ、最初に、
0:35:51	ご説明あったかもしれないんですけど今回はその
0:35:55	一気通貫でご説明をされて
0:35:59	ちなんちなみにこの 14 ページですかね、14 ページ 15 ページ辺りだと、
0:36:06	そのコメント回答に伴う変更と、
0:36:10	ということで、幾つかちょっと変わりましたよっていうのがあるんですけど。
0:36:15	どこがどういうふうに変わったっていうのが、実はよくわからない。
0:36:20	御説明ではありましたけれども水位が変わった。
0:36:22	そういうのありました。
0:36:24	多分これ具体的に言うと、
0:36:26	じゃあモデルがどういうふうになって、
0:36:29	そういうことを、
0:36:31	確認しようとする多分これ 141 ページですよ。
0:36:34	141 ページが、
0:36:36	前回はこういうモデルを、例えば水位上昇側で、
0:36:41	一番大きなケースはこれです。
0:36:45	とやってたのが、
0:36:47	今回は右側になったという。
0:36:50	まず理解でよいかというのと、
0:36:52	もしそうだったら、やっぱりちゃんとこの 14 ページ、
0:36:56	とか 15 ページ辺りのところで、少しそこは最初、
0:37:01	前回からこういうモデル、
0:37:17	はい、中部電力の盛です。
0:37:19	今回の変更点につきましては佐口さんのおっしゃる通りでございます。16 ページに、今回のちょっとここ数値は載ってませんが、今回の前、
0:37:30	プレート間地震の全体像とコメント回答の関係ということで、
0:37:35	No.1 から No.4 コメント回答まで入れ込んだ上で、どこに関係しているのかということをお示しさせていただいてます。で、評価の健康に関わってきているのはこの No. 3 コメント回答黄色の部分でございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:47	ここに伴って4. 二章の検討波源モデルパラメータスタディが変わっているというのが、今回の変更でございます。で、今ご指摘いただいた141ページを、もう少し14ページ15ページの、
0:37:59	当たりまで前に持ってきて、あらかじめ初めに説明させていただく構成にしたいと思います。ありがとうございます。
0:38:06	はい規制庁佐口です。よろしくをお願いします。当然その方が資料としてわかりやすいと観点で一応今、確認をさしていただきましたけど、それで、一応、
0:38:16	前回までは、前回の会合までは基本的にはコメント回答をまず最初に持ってきて、そのあとそういったコメント回答のことも反映した上で、
0:38:26	そのあとに、資料一式
0:38:29	そんな形で資料、
0:38:31	今日の資料見ると、もうそういうのも入れ込んだ形でちょっと一色。
0:38:37	という形っていうのもあったので、
0:38:40	全体通しで、
0:38:42	もう一度、
0:38:43	これまで幾つか確認を
0:38:45	させていただいてる部分もありますけど、それで再度ちょっと確認をさせていただく部分もあるんですけどいくつか各
0:38:54	まずあの、
0:38:55	32ページですかね。
0:38:57	これちょっと細かい話になるかもしれないんですけど、
0:39:01	これは津波堆積物調査、今の、
0:39:05	同時進行でヒアリングもさせていただいてますけどそういった結果も反映されて、
0:39:11	この32ページの右下の、
0:39:15	図ですかね、これのところに、その緑のバーが変わったと思うんですけど、
0:39:20	一応これ、確認させていただきたいのは、縦軸って、
0:39:24	津波高ってされているんですけども、
0:39:28	一方で、例えば歴史記録に基づく痕跡高っていうのは、
0:39:33	これは痕跡高なのかそれからとも、
0:39:37	痕跡高から推定される津波高なのかっていうのを教えていただきたいんですけど、もしこれが単なる痕跡高であれば、やっぱり、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:49	緑のバー。
0:39:50	は津波高の泥層じゃなくて単純に、痕跡高、
0:39:55	として、
0:39:56	要はその
0:39:58	両者というかすべて同じものとして、プロットされる方がいいのかなっていうところなんですけど、まずちょっとそこを確認、事実確認させてください。
0:40:10	はい。中部電力の盛です。津波高痕跡高と分けていることについてなんですけども、歴史記録については、そこまで津波が来たかどうか、
0:40:21	そういうの文献が残っておりますので、その津波高を今痕跡高という、要は痕跡高イコール津波高だというふうに思ってプロットさせていただいてます。
0:40:32	で、津波堆積物から推定される津波高については、津波堆積物の方の資料でも少し説明がされハシいただいておりますけれども、
0:40:41	津波堆積物の痕跡高よりは真上に津波が来たというのが、普通に考えれば、そうなりますので、その幅が0から2メートルぐらいだというような東北沖地震等の巨大地震の事例、
0:40:54	を踏まえて、痕跡高を下限値として、そこからプラス2メートルまでをバーで引かさせていただいているというのが事実でございます。
0:41:03	衛藤少しちょっと記載をどうすれば、
0:41:07	どのようにすればいいのか、両者ともに津波がどこまで来たかというのを表しているということを思っておりますけれども、記載は、については少し検討させていただきたいと思います。
0:41:18	はい規制庁佐口です。私の趣旨は単純に、何ていうんすかね。縦たち軸をちゃんとそろえてくださいと。だからこれはすべて津波高として示されているんだったら当然このままでいい。
0:41:31	ですし、痕跡高であるんだったら痕跡高でその痕跡高イコール津波高とかそういう話もあるんでしょうけど、少なくとも、なんかそういうのもわかるようにした形で、ここはきちんと示してくださいという趣旨。
0:41:47	で、ちょっと引き続き、
0:41:52	40 ページ、
0:41:54	とかですかね、これ以前に、
0:41:57	これも確認をさせていった。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:00	いただいたところですかね。これもおんなじ観点、痕跡高なのか綱津波高なのかというところと、
0:42:09	あとですね、当然その、
0:42:11	御社は独自にこういった痕跡再現モデルを設定されて、これに基づいて、津波の評価を行うわけで、そうすると、
0:42:21	これは何て言うんですかね、目安なのかもしれないんですけど、当然そのKと $\kappa$ があって、
0:42:30	D系については下に書いてありますけど、
0:42:32	これ0.95。
0:42:35	より大きくて、1.5より1.05か、1.05より小さい。
0:42:41	カッパーは1.45より小さいという、目、あくまでも目安なんですけど、で、これは以前は0点、多分系は0点。
0:42:52	Q6か何かで収まっていたんですけど、いろいろあって、
0:42:57	ちょっと収まらなくなったと。
0:43:00	いう背景は、ちょっと聞いてはいるんですけど、このK $\kappa$ を基準として多分その、
0:43:08	この後でいろいろこう、
0:43:11	どれが
0:43:13	ベースとなるモデルとしていいのか、っていうのを多分選んでいてそれが44ページとかになってくるんですけど、
0:43:20	44ページも同じように、これ目安なんですけど、
0:43:27	今その再現性が良好であることを確認したと言ってるんですけど、実はその目安の範囲って考えたら、例えばプレートの沈み込み速度を考慮したモデルの
0:43:40	応力降下量ですね、1.6MPaの方が、実は、
0:43:47	その適合性という言い方がいいのかわからないんですけどこの目安に、よく
0:43:53	合っている
0:43:54	とかですね。
0:43:56	あと、
0:43:57	プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルでも、
0:44:01	同じように、1、
0:44:05	P A S C A L
0:44:06	の方が何かいいっていうふうにもう見えちゃうんですけど。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:10	この辺りちょっと、どのように考えられているの。
0:44:14	っていう
0:44:16	ところを、
0:44:18	前もちょっと確認したかもしれないですけども、もう1回確認させてください。
0:44:24	はい。中部電力の森です。
0:44:26	今見ていただいている44ページだと、
0:44:30	Kが1に近いほど再現性がいいということと、方が小さな再現性がいいということ
0:44:37	円会の再現性の目安からするとそうではあります。で、この再現モデルを使って、そこから検討波源モデル作っているかっていうと
0:44:47	当社としてはそうではなくて、あくまでもその再現モデルと、
0:44:51	今回作っている検討波源モデルとの間滑り量なんかの比較のために、ここに置いてあるものですので、
0:44:58	その意味においては、
0:45:00	少し
0:45:02	再現性の目安の中で、保守的なものを選んでおいた方が、比較対象としてはいいのかなというふうに考えて、これを選んでいるというような、
0:45:11	ものでございます。前回もご指摘いただいているところではあると、このようにお答えさしていただいています。で、
0:45:18	具体的には検討波源モデル能勢、
0:45:21	てのところで、例えば、
0:45:25	94ページ。
0:45:28	お願いします。
0:45:35	で、
0:45:38	こちらの左側に痕跡再現モデルで右側に検討波源モデルということで、面積を大きくしたり、地震規模や滑り量等が大きくなったりということ
0:45:48	左から右に設定を変えていますということなんですけども、それぞれ検討波源モデル、痕跡再現モデル自体は、それぞれ独立に設定した上で、その比較ということで、
0:46:01	これぐらい大きくなっていますというようなものはのみお見せさせていただいていますので、この左側のモデルについて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:07	小さいというよりは、再現性がある中で、一番大きめのモデルをお示した方が、安全評価上も、嘘が出ないんじゃないんじゃないかというふうに考えています。以上です。
0:46:21	中部電力天野でございます。ちょっと補足をさせていただきますと、今盛が説明した通り 40、
0:46:27	4 ページのところで嵯峨さんからご指摘あったように、横川両変えながら見てる。
0:46:33	ですけど、結局、滑りのそのバランスは一緒に応力降下量によって、そのグロスの値が多少変わってきているのでこの差、痕跡再現モデルでいく。
0:46:44	経営がぎりぎり 0.95 というところなんですけど、これはつまりもって、平均値として高い側にいるので、再現モデルとして保守的であろうと。
0:46:54	いうことを考えて設定してます。一方で、
0:47:00	90 何ページだと、
0:47:02	4 ページに行くときに、もう M9 モデルに行くとき協力降下量 3 まで、ここでジャンプアップさせますので、南海トラフの滑り分布のこのバランスとして、
0:47:14	痕跡再現モデルを使っているということで応力降下量の、
0:47:20	痕跡再現モデルの応力降下量の設定自体は、評価全体に対しては、そんなに影響がないというふうに考えてまして少し、
0:47:29	その辺りを、44 だとかで、良好であるっていう書き方ではなくて、もう少しそういう、
0:47:37	意味がわかるように、
0:47:39	させていただきたいと思います。
0:47:43	はい。規制庁佐口です。何でこんなことを再度確認をするかというところでですね。当然その 1.7 メガっていうのが、内閣府とかで定められているものである。
0:47:55	御社はそれをに合わせるような形で設定しているのかどうかという
0:48:02	そこをですね、確認させていただきたかったんですよ。つまりあくまでも独自でモデルを作成して、当然、津波の
0:48:13	高さっていうのがこの再現性ですよ。再現性を見た上で、ベースとなるものでは、モデルはこれなんだと。さらにその検討波源モデルを設定していくときに、
0:48:23	いろんな国内外の知見、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:48:26	を踏まえた上でこう設定したんだという、
0:48:30	流れっていうんですかね。だから当然ながらこの 1.7 とか 1.6 とか 1.8 とか、検討はしてるんだけどこれが最終的に何か影響してくると、私も少なくとも思っていないんですけど。
0:48:43	だけど、まず御社が独自のモデルを作成するときに、どういう考えで設定をしているのかというのをちょっと確認をさせていただき、いただきたかったので、
0:48:54	でも、もし、そういった考えがあるんだったら、
0:48:57	そこはきちんと明確に書いていただきたい。これは、54 ページも同じです、54 ページも見ると、
0:49:06	今黒で、
0:49:07	プレートの沈み込み速度を考慮したモデルの 1.7MP a が、何かいいんですよっていうように書かれているんですけど。
0:49:16	いや、K カッパーっていうもので単純に見ていくと、他にももっといいのがあるんじゃないですかという。だから、この辺りを踏まえて、どういふに御社が独自のモデルを設定をするのかという考え方をきちんとここは書いていただきたいと思う。
0:49:34	小貫浜野でございます。はい。ちょっとしっかり考えて、記載を
0:49:40	変えていきたい。改善者で修正していきたいと思います。
0:49:45	はい。規制庁佐口です。引き続きなんですけど、これ、これはあくまでも確認、確認なんですけど、今日説明御説明なかったんですけど、70 ページで、これは以前から、
0:49:56	ご説明がある、内閣府のいわゆる時間差発生モデルなんですけど、
0:50:03	これ今、
0:50:05	当然検討はされているんですが、
0:50:12	少なくとも今ここに示されているのはまず東側のモデルが破壊して、
0:50:19	破壊というのか、その東側モデルから津波が発生して、それで時間差を置いて、西側モデルから、津波が発生するような、そういう、
0:50:29	検討されているんですけど、例えばこれ、逆。
0:50:33	西側が先に破壊して、
0:50:36	後から東側が破壊するような、そういう検討ってされてたんですけどっていうのと、もしされてるんだったらちょっと。
0:50:46	どんどん、どういう形で、
0:50:51	影響があるのかないかどうかも含めてですね、ちょっと

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:54	確認をさせていただきます。
0:50:57	はい。中部電力の盛です。内閣府の報告書の記載のままなので少しわかりづらくなってしまっているところあるかと思うんですけども
0:51:06	一番左側の東側モデルに対して同時刻に西側モデルが発生というのが要は、東側には同時に破壊したものです。で、その上段で右にずっと行くのが、東側モデルに対して、
0:51:19	西側モデルが先に破壊するものになってまして、下段の方は逆に東側モデルに対して西側が5分後に破壊するとなっておりますので、
0:51:29	上段側の5分10分15分というのは西側モデルから、破壊したもので、火山側が、東側モデルから破壊したものの。
0:51:39	で、その時間差が5分10分15分と、右に行くにつれて、ずれていくということで、両方とも、
0:51:47	津波高への影響は小さくなっているというのが示されているという結果でございます。
0:51:51	はい。規制庁佐口です。わかりました。今のご説明聞いて私、ごめんなさい私が確認不足だったのかもしれないですけど、少なくとも両方、
0:52:00	東側、要はその東側が破壊して、西側が破壊するケースと、西側が破壊した後に東側が、
0:52:09	両方あるというのが確認できました。で、ここでは、一応、
0:52:16	パラメータっていうんですかね。
0:52:17	最大滑り量とかってあるんですけどちょっとこれ、見づらいので、例えば、各ケースで、例えば浜岡の地点が最大のその津波高としてはどれぐらいになるのかみたいなのって、
0:52:30	どっかに載ってたんでしたっけ
0:52:37	はい。中部電力の盛です。パラメータ自体小さいので津波高も小さいんですけど計算自体はちょっと行っていませんので、掲載していないというのが、現時点の資料でございます。
0:52:49	はい、規制庁サグチなので基本的にはパラメータが小さいんで、今考えてるM9クラスに対してはパラメータが当然違う違って、今設定してるのは、
0:53:01	大きいので、津波の高さとしては、
0:53:05	今のが大きいんじゃないかと。
0:53:07	ただそれはあくまでもたとえ、例えばその時間差が発生してるので、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:12	浜岡の時点でそのピンポイントで云々という話はあるかもしれないですけど、
0:53:16	医師が特に西側が破壊して、
0:53:19	西側の津波がやってくるぐらいのタイミングで東側が、
0:53:24	破壊して、さらにそれが来て重なったら結構大きくなったりとかそんな検討はされてます。
0:53:36	中部電力のものでございます。そ
0:53:38	为什么呢、時間差がぴったりうまく合うようになっていうような計算はしたことはございませんで、
0:53:45	今、佐口さんがおっしゃられているという、ちょっとグラフだと見に行く、いいので、
0:53:51	少し、
0:53:53	元のデータの方に、
0:53:55	内閣府のモデル確認して、大体浜岡でこの
0:53:59	どれぐらいの高さになってるかっていうのを、目安として確認して、追記。
0:54:05	できればしていきたいなと思います。
0:54:08	はい。議長サグチ多分ですねこれ数値がその幾つっていうふうには、そのデジタル値であるかどうかわかんないんですけど多分これ、ちょっと見づらいんで何とも言えないんですけど、ここスケールバーがあって、
0:54:21	多分これを何か見ていけばわかるのかなという気もするんですけど、ちょっとそこが何かわかる形で、
0:54:29	していただき
0:54:30	はい。中部電力のもんです。ちょっと読み取り値になってしまうかもしれませんが、津波の規模感として、やはり最大クラスよりは小さくなりますよっていうところをしっかりお示ししたいと思います。
0:54:45	はい。気中サグチです。ちょっと今日ご説明あったかなっていうところ入ってきますけど、これ一わー130 ページかな。
0:54:54	130 ページで、
0:54:56	確認をさせていただきたいのは、
0:54:58	この表の中で、
0:55:00	一番左の日本海溝の津波評価手法モデル①の中の上から二つ目、地震モーメントなんですけど、
0:55:08	この 8.4。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:09	算中の 22 条っていうのが、ちょっと数値的にどっか
0:55:15	補足とか見ても見つからなかったので見つからなかったというより、いきなりこれ、
0:55:21	補足の、585 ページですかね。
0:55:26	見ると、何か左下の、
0:55:29	津波全体の地震モーメントは 7.0 とかあと真ん中の合計した地震モーメントも当然 7.0 になっていきなりこっからですね。
0:55:39	一番右の表でいきなり 8.4 なんてこの間がちょっと何でこう 8.4 になったかっていうのもわからなくて、ちょっとこの数字、
0:55:47	どういう形で出されているのか。
0:55:50	ていうのを教えてください。
0:55:57	はい。中部電力の盛です。
0:56:01	580 ページの
0:56:06	真ん中というか、左真ん中右という表があって 2 ポツの微視的波源特性の設定ですかね。
0:56:13	その部分で地震モーメント自体は、7.0 になってると。
0:56:17	ということで、その右側の断層モデルでどういう反映していくかというところで、
0:56:24	8.08、4 ですか、っていうのところにちょっと大きくなっているというところで、これはですねと。
0:56:35	日本海溝モデルなんですけども南海トラフの波源域のパラメータに合わせるためにですね、どういうふうに滑り域の位置をあるかというのを他のモデルに合わせているところもありまして、
0:56:47	素行を
0:56:50	背景領域で調整するかと思ったんですけども、ちょっと背景領域で調整する排気量が余りにもちょっと小さくなりすぎてですね、とか具体的にちょっとゼロとかになってしまうので、
0:56:59	ちょっとそれもおかしいんじゃないかということで、
0:57:03	3 ポツの土肥。
0:57:05	矢印の一番、3 個目に書いてあるんですけども、その上記設定によってその地震モーメントってのはちょっと大きくなってしまいうんですけども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:14	保守的な設定として、まず現実的な設定としてですね、地震モーメントの調整、背景領域の滑り量の調整ってのは行わないようにこのモデルで話しているというところで、これちょっと大きくなっていると。
0:57:29	はい。規制庁佐口です。
0:57:31	ナカタっていうか、それはわかったんですけど、いや、なぜ8.4かっていう、ごめんなさいそのエビデンスじゃないんですけど、また、単純に考えるこれ言って、
0:57:40	とかな。
0:57:43	その辺に
0:57:45	この8.4っていう数字になっなるといのが、
0:57:49	ちょっとどこからも読めなかったので、
0:57:53	何て言うんすかね。なんか、例えば、いや、単純にこれ面積から出しているんですよとか、
0:57:59	計算式とかで、
0:58:00	で出してるんだったらなんですけど、ちょっとそこがわかるような形で、
0:58:04	どういうふうにこの8.4というのが出てきたのかが教えて欲しいんですけども。
0:58:13	はい。581ページ、ちょっとここで、
0:58:17	ご説明できるかということはあるんですけど581ページにその具体的な今
0:58:23	3ポツのどういうふうに設定を反映していくかということで、
0:58:29	記載をしてございまして、
0:58:32	これ一番上側にまず3、平均滑りの3倍だとか、1.34倍だとか、背景領域だとかっていうのは滑り量を
0:58:43	設定するというのが一番上側の各小断層の滑りを設定でございます。
0:58:48	で、
0:58:51	と、それに対して、
0:58:55	下が一つ下側に各南海トラフの沈み込み速度の話がありますのでそれと、
0:59:01	その下側各小断層の面積、
0:59:05	とがあって、そこから
0:59:14	その滑り平均滑りを考慮して
0:59:17	一番上川野瀬ちょっと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:20	ちょっと私も逆に、
0:59:21	平均滑り量を、沈み込み速度に比例させて一番下の滑り R O V まで持っていくというようなプロセスで、検討しています。で、この段階で、単純にその
0:59:33	最後にこの
0:59:35	背景領域の 0.33 というものを、
0:59:38	地震モーメントの調整しようとして、補正するというのが、
0:59:43	日本海溝モデルのやり方なんですけども、ちょっとここを補正したところ、
0:59:49	先ほど申し上げた通りに、そのスピード設定主として 0 とかになってしまいうちのちょっと事態が発生してしまったので、何も補正せずにそのまま、背景領域として、
1:00:00	今この 4 番目のところにあるような数字をそのまま使用しているところなんです。これを地震、
1:00:07	滑り量と、小断層の面積と、モーメントを出しますと先ほどの 8 点。
1:00:13	4 という数字になるということでございます。
1:00:20	はい。規制庁佐口です。
1:00:22	多分今のご説明で、わかった方ってどれぐらいいるのかなっていうのは、気がする。とにかく、581 ページのこの滑り量を使って、
1:00:32	あと当然面積があるんで、これですよ。普通に普通にその $M_0 = \mu D S$ っていう、この計算に当てはめれば、多分 8.4 というのが出てくるっていう多分ご説明だったと思うんですけど。
1:00:45	ちょっとごめんなさいそこをわかるようにしてください。中部電力の真野です。すいません。もう今佐口さんがおっしゃってくれた通りなんですけども、ちょっとその説明が全くないので、わかるように、
1:00:58	記載を改めさせていただきます。
1:01:04	はい。規制庁佐口です。引き続き、133 ページ、これ、少し教えて、教えてくださいという言い方も変ですね。
1:01:14	ちょっと確認をさせていただきたいんですけど、これ単純にその文言だけの話なんですけど。
1:01:21	この、
1:01:21	最後、上の箱書きの最後の、
1:01:27	津波発生効率の高い
1:01:30	の高井トラフ軸付近において日本海後の津波評価地方モデルよりも、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:36	やや大きくなっていることを確認した。
1:01:39	ということなんですけど。
1:01:43	津波発生効率の高い、
1:01:46	うん、高いというのと、
1:01:48	実際の
1:01:50	地殻変動量っていうのは当然、場所が変わっ。
1:01:55	で、その地殻変動量との間、
1:02:00	がどうなっているのか、つまり使う地殻変動量って対比てない、例えば 例えば2、2の、
1:02:06	2'とか、
1:02:09	あと、
1:02:11	トラフ軸の近くではそんなに地殻変動量がないように、
1:02:16	もっと離れたところ、
1:02:18	あるんですけど、
1:02:20	でも、
1:02:21	津波発生効率としては、
1:02:25	トラフ軸付近が、
1:02:28	高。
1:02:29	で、
1:02:29	じゃあそのトラフ軸付近を見ると、
1:02:34	やや大きくなる。
1:02:37	でもその本当にやや大きくなる。
1:02:42	一番例えば地殻変動量の大きなところで見ると、例えばどう
1:02:50	そうでも
1:02:53	考え方っていうのか。
1:02:56	見方とかです。
1:02:57	もう少しちょっと教えて。
1:03:00	はい。中部電力の盛です。まず、ちょっと津波発生効率の高いトラフ軸 付近というところ、ところはちょっと我々の説明の趣旨とちょっとそぐ わないので、記載は検討させていただきます。
1:03:12	で、まず敷地を通る断面に調査で利益を持ってきてますので、いちいち' の断面で見てくださいと、全部超滑り域がある。
1:03:24	モデル。
1:03:25	①での断面として比較している中で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:29	当社の検討波源モデルAと、Dというのが、海域において、影響が大きくなっているということを見ていただけるかと思います。
1:03:37	で、2'も基本的にはそうで、
1:03:43	また33'までいきますと、
1:03:46	黄色のやつがちょっと出てきたりとかっていうと、
1:03:49	ですけれども、これ自体は左側の左下の方に検討波源モデルDの
1:03:55	ここで使ってます。その滑り域位置での地殻変動の分布を示してますけれども町を滑り域が外れてくることもあって、
1:04:03	日本海溝四方モデルで、超滑り域が結構深い位置まで設定されている①の影響が大きくなってきているということ。
1:04:12	なので、あまり3'で、黄色が大きいかから、我々のモデルが小さいんだということちょっと言いたいわけでも、
1:04:19	ないですので、基本的にはその
1:04:23	敷地に、
1:04:24	敷地前面の1'に押す力を持ってきたモデルの中で、どれが一番大きいかっていうのをまず比較ましとして示してると。で、
1:04:33	AとDの関係もありますので、Aは、
1:04:38	左側の上のように、そのトラフ時空の方に滑り張ってあるモデルで、Dはちょっと、
1:04:45	深い方まで、ただ、長さとしては短いモデルだということちょっとその差を示したいこともあってちょっと3段目示して、
1:04:53	みたんですけども、少し上の箱書きと趣旨がちょっと説明の趣旨がちょっと異なっていますので、記載は、再考させていただきます。基本的にはその海域は特にその敷地前面に持ってきたときに、
1:05:06	その一時'なんかを見た時に当社の検討波源モデルの滑り量設定と地殻変動の分、
1:05:13	が、補やや大きく、同程度以上になっているということは言いたいというのが趣旨でございます。
1:05:20	はい。佐口です。おっしゃりたいことはわかりました。今その後、もう森さんからありましたけど、ちょっと、だから、言いたいことは何なのかっていうのと、実際にはこうですっていうのがちょっと間違ってた多分言いたいことっていうのは先ほどの森沢能勢
1:05:34	ですと、多分敷地と、
1:05:37	当然その滑り域、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



1:05:40	との関係なんかも踏まえた上で、敷地への影響という観点で見るところ、こうなってますよという多分そういうことをおっしゃりたいのかなと思って、
1:05:51	ちょっとそうすると、今の、今書かれている趣旨
1:05:55	も違います。違うので、
1:05:57	ここはわかるように書いていた。
1:06:08	はい。規制庁佐口です引き続きですけど、今回いろいろコメント回答の一つである 138 ページ目以降ですかね。
1:06:18	多分ここがメインになってくるんですけど、これちょっとこの後含めて教えていただきたいのは、
1:06:26	もう今回の津波評価の概要ということで概略パラオ。
1:06:30	同時破壊として検討。
1:06:32	されたと。
1:06:34	で、ということなんですけど、
1:06:37	このさ、
1:06:39	140 ページこれ結果分析の結果っていうことなんですけど、
1:06:44	これはあくまでも確認であって、
1:06:50	左下の表があって、概略パラ。
1:06:55	破壊伝播を考慮した検討と、それから同時破壊。
1:07:00	とした件、
1:07:01	詳細パラメータスタディでありますけど、この一番下の
1:07:05	教材パラメータスタディっていうのは、
1:07:10	この上の二つのうち、どちらを使ってさらに詳細パラメータスタディをやった結果なのかをちょっと教えて。
1:07:22	はい。中部電力の盛です。
1:07:24	こちらの今回、
1:07:29	基準津波、基準断層モデルとして選んだものが、藤比嘉、今の下の表でいきますと東 40 キロというものと、
1:07:38	そこから左に四つというか、基準位置から東 40 キロのモデルで詳細パラメータスタディを実施してまして、その計算結果があるものですから、
1:07:49	それを下の詳細パラメータスタディというところに載せています。
1:07:53	西出 10 キロについては、前回、選んでいたモデルで、こちらも

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:58	今回と同じ詳細パラメータスタディではないんですけども、パラメータスタディとしては同じようなことをしてまして、前回の結果がございまして、それを掲載しているということで、
1:08:09	前回の結果ですということで米印をつけさせていただいているのはそういう趣旨でございます。
1:08:17	規制庁サグチすみません、ごめんなさい趣旨が伝わってなかったかもしれないんですけど、
1:08:23	詳細この詳細パラメータスタディっていうのは、
1:08:29	一番上の、
1:08:31	概略パラメータスタディを使って、
1:08:35	さらに詳細パラメータスタディをやった結果なのか、それとも、二つ目の同時破壊とした検討をした結果を用いて詳細パラスタをやった結果なのか。
1:08:47	両方やったものの、大きいものをとってるのか何か嘘。その辺ちょっと、そこがちょっとよくわからなかったという中部電力アマノでございます。結論として申し上げます、
1:08:57	真ん中のピンクの、今回やった同時破壊を用いた、
1:09:02	詳細結果を記載しているというものになりますただし、22生10キロのところってのは前回提示していたところ、
1:09:13	になりまして、こちら、その概略パラスタ一要は真ん中のやつ同時破壊で見ますと、他のケースより小さいので基準断層モデルとしては選んでないんですけど、
1:09:26	前回の評価と、まあさ、大差ないですよってところをお示しする意味でちょっと白抜きで表示させていただいているので、ちょっとそこが、ここ言葉が足りないんでわかるようにさせていただきたいと思います。
1:09:39	はい。規制庁、佐口です。事実確認はできたので、あくまでも、同時破壊とした場合に、だから、結局破壊開始点とかそういう影響を排除して、
1:09:51	やったらこうこうなって、影響が大きいモデルで、
1:09:56	かなというのを確認したとそういう検討のあれですよ結果ですね、わかりました。
1:10:01	中部電力青野です。前回審査の中でご指摘いただいてやっぱり滑りキーの位置を選定するときに、最初の破壊開始点が入っていると。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:12	純粋に位置の影響が見てとれてないんじゃないかというご指摘ございまして、層相道は二つで、破壊開始点 6 ヶ所振ったやつを、同じように、
1:10:24	全部やって選んでくるか、当時の浅田管理官からの
1:10:30	お言葉であったのは、そこまでやるのも大変だから、例えば同時破壊みたいなことで破壊開始点の影響を排除して選んで、そこから破壊化してくるっていう方が、
1:10:41	当然計算数が少ないというお言葉もいただいておりますので我々江藤同時破壊で今回お示しさせていただいたという流れです。
1:10:52	はい。規制庁佐口です。で、
1:10:55	当然、私はわかっていますし、当然この審査に携わってる人はわかっていると思うんですけど、
1:11:04	あくまでも、確認というのがこれ東 40 キロっていうのは 40 キロ以上はもう動かさないっていうことでいいですよ。
1:11:12	岩間ですすみません。
1:11:13	確かにこれ、社内でもよく聞かれるんで、
1:11:18	一応、米印としては 146 とかにも書いてあるんですけど、
1:11:24	あれですねちょっと説明の中でも少しそこは申し上げた方がよくてよ、要はモードん月に来ているので、
1:11:32	東 50 キロって言われると、ただ面積が減っちゃうだけですから、
1:11:36	すいませんそこその辺は、説明の中とかで工夫させていただきたいと思う。
1:11:41	はい。規制庁佐口です。当然我々は理解していますけど、例えば一般の方とか、何かあったときにちょっとわかるようにしていただき、
1:11:53	はい。あといろいろその影響、影響検討とかも、いろいろ影響検討っていうんすかね。
1:12:01	なんですか。
1:12:03	いろいろパラメータ因子の影響か。
1:12:05	とか、
1:12:06	そういうところも検討していただいて、どういうものが影響してるのかっていうのも、今回示された
1:12:13	あとそのコメント回答関係でいくと、
1:12:20	今日ご説明あった、いわゆる
1:12:25	南海トラフの形状に関する松原江藤の事件ですよ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:29	213 ページで、今日ご説明あったんですけど、当然その 214 ページとか 215 ページ、これって、
1:12:37	この前の会合で、
1:12:40	出てますので、この資料提出がその会合の前だったということもあるんですけど、一応これ、会合の資料でもうすでに出たものですよって同じものだったら、
1:12:52	その会合で、いわゆる再掲ってやつですよな。
1:12:55	ていうのを何かつけていただきたい。
1:12:58	あとですね、
1:12:59	結局その 218 ページのところで、
1:13:05	これも
1:13:07	地震動の会合でコメントしましたが、最終的に両者が概ね整合しているみたいなところで、
1:13:14	終わっているので、私、
1:13:16	が、我々がこれまで求めたのは、あくまでも津波評価への影響という観点で、どうかっていうと、
1:13:26	ちょっとその辺りを含めて、もうちょっとこうさ
1:13:29	深める
1:13:30	今は同程度と。
1:13:32	全体的に
1:13:35	ちょっと、
1:13:36	何か津波評価の影響のある海域においてはとかありますけど、
1:13:41	津波の波源モデル全体として見てみると若干その
1:13:46	傾斜角っていうんすかね、が変わっているのかどうかとかですね。
1:13:51	あと、
1:13:52	今この、218 ページは、18 ページで、高速線を 1 から 5、
1:13:59	引いてますけど、
1:14:00	じゃ、
1:14:01	あくまでもその、
1:14:02	津波が、
1:14:04	この南海トラフ。
1:14:06	で発生した津波が、逆に言うと、敷地に向かう方向とかですね。
1:14:12	そういった方向を例えば考えると、今の例えばこの、この測線の切り方では、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:19	これ単純に、
1:14:22	何て言うんすかね。プレートの
1:14:25	形状に対する、
1:14:27	比較をしているわけで、
1:14:29	あくまでも観点としては津波評価への影響という観点で少し、
1:14:35	これで本当にいいのかというのを踏まえて、ちょっとそのあたりは、
1:14:40	考察をもうちょっと深めていただきたいと思う。
1:14:46	はい。中部電力の盛です。考察について検討させていただきます。
1:14:50	今津波の補膜到来方法という話がありましたので少しだけ補足させていただきますと、
1:14:58	大江側のこの、今回切ったような断面の方向に沿っているものというふうに考えてまして、
1:15:03	補足説明資料の
1:15:09	410、
1:15:10	4 ページ。
1:15:16	をお願いします。
1:15:29	こちら以前駿河湾に超滑り域をつけた検討の時のもので、
1:15:36	津波の到来方向を検討したものになりますけれども、
1:15:41	地震発生後 2 分 4 分 6 分というのは青線で、松波のは法線を書いてまして、大体こっちの方から来るよってというのは青い水色の点々の矢印で書かせていただいているもの
1:15:52	大体、
1:15:53	南海トラフの、この断層モデルの密集に沿った方向から波が来ているというのが、見ていただけるかなというふうには思っ
1:16:00	で、本体資料の方、先ほどのページに戻っていただきますと、衛藤。
1:16:06	左側のピンクの線で囲った松原衛藤 2021 の間の推定範囲なんかを見ていただくとその到来方向、その周辺も含めて、あまり続いてされてないということもあってですね、あまり津波評価においては影響が、
1:16:21	あるようなものではないのかなと。というかデータがないところなのかなというのは思っております。少し、どのようけ、考察含めて記載の充実化を検討いたします。
1:16:34	はい。佐口です。
1:16:36	そうですね今盛さんからご説明あった例えば、その到来方向に、ほぼほぼ沿っているんだったら、当然そういう文言って多分、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:44	できていいのかなと思って今、今だと何かここ、断面を
1:16:48	切って、比較しましたっていうだけなので、ちょっとその辺りは、
1:16:53	よろしく
1:16:55	で、ちょっとさ、あと最後なんですけどね。
1:16:58	数値シミュレーションに基づく、
1:17:01	検討があって、そのあとですね、219 ページ以降で、
1:17:06	ちょっとこれも確認。
1:17:10	させていただきたいんですけど、結局これ、
1:17:14	いろいろやって、
1:17:16	タニ地形をしていけばやっぱり増幅しますよっていうのもシミュレーションで確認を。
1:17:21	ができましたという一連のご説明だったと思うんですけど。
1:17:27	そうすると、
1:17:28	結局その今津波堆積物調査でやっている。
1:17:33	そこまで結局高いところにこう来なかったというような結論と、
1:17:40	何か相反するというのか、何かシミュレーションでやると。
1:17:45	高く出ている、むしろこれまで
1:17:48	示されていた。
1:17:51	結果の方が、
1:17:52	より整合的。
1:17:54	なんじゃないかなっていうところあるんですけど、でも今回その津波堆積物調査でいろいろ評価を変えて、そんな高いところまで実は来てませんでしたという、
1:18:04	結果と、
1:18:06	今回のシミュレーション、あくまでもこれは1なんていうんですかね。
1:18:11	1 検討であって、実際には本当当時の
1:18:15	地形って、
1:18:17	この通りだったかっていうと、多分そうじゃなくて、よくわからないっていうのが現状なんですけど。
1:18:24	そのあたりのその関係、実際のその調査結果と今回のシミュレーションとかいろいろこういう考察とか検討との関係性、
1:18:32	ていうのを、
1:18:33	どのように考えられているのかっていうのを教えてください。
1:18:43	はい。中部電力の盛です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:45	226 ページ等でお示しさせていただいた通り、
1:18:50	数値シミュレーションで、
1:18:54	6000 年前の地形ってなかなか想定できないところもあるのである意味ちょっとエイヤーというような、一定の仮定を置いて数値シミュレーション、
1:19:01	また日計が 6000 年前もあったかどうかというところも、もしかしたらあるかもしれないんですけども、
1:19:09	解析をした結果としてタニ式があれば、松波の
1:19:13	層状中としては増幅するというのを、今回示させていただいたというのがこちらの資料の
1:19:19	説明事項でございます。で、一方でその津波堆積物調査の方では今回実際のそのコアの分析なんかに基づいて、どこまで、
1:19:30	津波、イベント体制、海起源のイベント堆積物があるかというのを事実に基づいて整理させていただいたところをそこまで
1:19:40	あまり高いところではそのようなものが見つからなかったというのが、一方での事実になります。
1:19:45	で、現実としては、津波堆積調査の方が、残ってる残ってないという問題がどこまで残りますので、あるんですけども、
1:19:55	そのような高いところに津波堆積物としては残っていなかったというのが、事実でして、一方で計算としてはこう出てしまうんですけども、あくまでも
1:20:07	1 事例ということと、あとは
1:20:10	やはり津波堆積物古いところで、谷地形でということもあるので、残っていなかったということもあるんじゃないかなということも思っています。当社のちょっと整理としてどのようにさせていただければいいのかなということはあるんですけども、
1:20:24	ちょっとこのコメント回答として、
1:20:27	前回津波堆積物が高いところにあったので、ということでコメントをいただいていたところ今回こういう結果があったということで前回の
1:20:35	堆積物のヒアリングでも佐口さんをご指摘いただいたところではあると思いますのでちょっとその前提条件となる堆積物の調査の方の結果が今回変わってしまったということで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:47	あまりそれに対して、さらにこの解析として考察を加えてコメント回答として示すというのちょっと趣旨が変わってきているのかなというところも、
1:20:55	あるような気がしてまして、
1:20:58	実際の解析的にあれば単一で上がるということを示させていただいてるんですけども、ちょっと大々的に本編で示させていただくのがいいのか、1事例として補足的に補足説明書の中に置かせていただくのがいいのか。
1:21:10	少し検討させていただく余地があるのかなというふうにも思っております。以上です。
1:21:15	はい。規制庁作成、ちょっとこれはやっぱり津波堆積物調査等の関係も含めて1日付けですね、ちょっともう少し考えていただきたいのと、
1:21:26	あと、ちょっと細かい話でしたですけど、その9ページのコメント一覧のところこれ、当然No. 6ってなってるんですけど、これってごめんなさい。
1:21:37	この、
1:21:39	この会での指摘でしたっけ、それともそれより前、ごめんなさい、ちょっと。
1:21:45	多分このこの会でいいんです。
1:21:48	中部電力阿南です。はい。昨年12月17の
1:21:53	この時は、津波等堆積物両方一緒にやらせていただいて、記載しております。で、今回ちょっと堆積物が先に、
1:22:05	ヒアリングという形になったんで、時間軸とした後は分かれちゃってるっていうのが事実です。
1:22:13	はいサグチです。なので、こちらは、いわゆるその津波堆積物の、
1:22:19	方でコメントしたものを。
1:22:22	ですよ。違う。違います。ごめんなさい。ちょっと。
1:22:25	確認なんですけど。
1:22:33	はい。中部電力のものでそうですね。計算なんでこっちに載せてるんですけど。
1:22:38	次、アツギ等を行っても、今日、
1:22:43	ごめんなさい。なのですごい細かいことって言ったのは9ページの一番左の項目のところに、
1:22:50	確かにプレート間地震の津波評価ではあるんですけど、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



1:22:55	ただコメントしたのは、津波堆積物、
1:22:59	調査なのでちょっとその位置付けじゃないんですけど、そこを少し
1:23:05	わかるようにしていただきたい。
1:23:08	横谷間野です。承知いたしました。
1:23:11	で、
1:23:12	今、佐口さんからお話あった通りで前回その堆積物の審査の中で、カイダさんからご指摘あったように特に敷地の中の、我々はまとめだというふうに理解していた。
1:23:25	ご説明させていただいたんですけど、やっぱりそのスケッチだとか、断面だけでわかんないということでしっかり物証を持って説明をしなさいというご指摘いただいて今回、
1:23:37	その部署、しっかりとって、
1:23:40	評価結果を改めてご説明させていただいたという結果を踏まえた上でこのシミュレーションが少し、当然タニであれば上がることもあるけど、
1:23:51	津波の規模によっては変わるので、今だとちょっと泣き別れみたいな資料になってるんで少しその辺りも読めるように、我々の考え方をもう整理して入れさしていただきたいと思います。
1:24:07	はい。規制庁佐口ですよろしく申し上げます。
1:24:10	とりあえずというか一旦、
1:24:12	次からは以上です。
1:25:18	規制庁昨日ごめんなさい。以上ですと言っておきながらちょっと、
1:25:23	もう1回再再度
1:25:25	概略パラスタ等、詳細パラスタも結局その間ですよ。
1:25:30	ね、同時破壊をされて、概略パラオやったのはあくまでも影響のある。
1:25:37	範囲というのかなんていうんすかね。滑りTの位置を探索することが目的であって、
1:25:46	普通に詳細パラスタっていうのは、
1:25:50	当然、破壊開始点とかを、
1:25:54	パラスタやっているので、別に同時破壊ではなくて、普通に、
1:25:59	やっている。で、概略パラのその、じゃあど、どれを、その概略パラスタ結果の結果としてその小詳細パラスターに引き継ぐモデル。
1:26:10	の候補として選ぶというところだけを、
1:26:13	主、同時破壊によって、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:16	検討されたと、そういう理解でいいですね。
1:26:22	中部電力天田でございます。おっしゃる通りで 138 に、その辺、整理させていただきます
1:26:29	おまして、
1:26:31	ちょっともう少し見える化しスルーした方が良いのかもしれないですが、赤字で書いている通り、真崎さんおっしゃられた通り概略パラメータスタディは、破壊開始点の影響を排除するために同時破壊で、
1:26:43	影響の大きい場所をまず選定しますというステップの次の動的パラメータ詳細パラメータスタディでは動的パラメータを、60 秒から 3、300 秒っていうのと、
1:26:56	破壊伝播速度或いは破壊開始にすべてにおいてちゃんと振るというステップを踏んでますんで、
1:27:04	変えたところと変わってないところが少し、もう少しわかるようにしたいと思います。
1:27:10	はい。よく資料、サグチですけども、よく資料を見ていけば多分わかるんですけど、今のこの 138 ページだと、何か同時破壊として検討した上でさらに、
1:27:21	そう、その何ていうんですか
1:27:23	詳細パラメーター。
1:27:25	映っていると、実際そうなんですけどあくまでもこの同時破壊として検討しているのは、
1:27:31	候補となるものを宣伝するためにやってるという、ちょっとそこがですね、何か今ぱっと見ると、
1:27:37	同時破壊も全部実はこう考慮した上で、さらにやってるんだよというふうにも見えちゃうので、
1:27:44	ちょっとそこは工夫してください。
1:27:46	はい。中部電力嘉門でございます。少し、もっとわかりやすく工夫させていただきます。
1:28:36	一応サグチすみません、ごめんなさい、もう 1 回、もう。
1:28:40	今日ご説明のあった中で、
1:28:43	ちょっと確認をさしてください。
1:28:47	補足資料、補足資料の今日、今日説明した 38 ページ 39、
1:28:51	これ、実は私もあんまり、
1:28:55	気にしてなかったっていうわけじゃないんですけど、ここまで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:01	実際にはどうなのっていうのは当然やってるのかなと思ってたんで、
1:29:05	あんまりこれまで確認をさせていただかなかったんですけど、結果として、
1:29:11	これ多分、
1:29:13	泊選考された泊かな。
1:29:15	て思ったんですけど。
1:29:17	そういう審査事例を踏まえていや、
1:29:22	やりましたと。結果としても結局、
1:29:25	特にそれが何か影響して変わり読むようなもんじゃありませんでしたと いうところなんですけど、
1:29:33	ちなみにこの、
1:29:36	38 ページである 2 分とかっていう、
1:29:39	数字が結構具体的
1:29:45	プラス 1 メーターを
1:29:48	が 2 本、
1:29:50	これの、何て言うんすかね。
1:29:53	っていうのは、何かどっかに書いていた。
1:29:57	なんででしょうか。
1:30:01	はい。中部電力の盛です。38 ページの左側というか、感度解析によると いう検討というところの検討条件というところに
1:30:11	一応設定方法としては書かせてはいただいてまして、
1:30:16	一番そのガイカイ水位ということで一定値を何らか仮定してやっている ということで、有意な流入量がえられるようにということで呑み口下端 レベル+1 メートル。
1:30:27	どうしたということで、具体的にこれが 0.5 メートル。
1:30:31	なのか 2 メートルじゃなくていいのかということ、
1:30:34	は少しあるんですけども、もう榎李奥ということで 2、1 メートルでや らせていただいたところ、下に示しているグラフの通り 2 分ぐらいで 回復するというのを見たので、
1:30:46	このような今回設定させていただいています。で、
1:30:50	具体的にその 0.5 メートルとか 2 分であってもこの 1 ページに示させて いただいたようにその評価結果が変わらないということは、
1:30:58	見ておりまして、あまりその浜岡サイトにおいては、あんまり短時間の 水位上昇みたいなのが実際には

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:06	ない、ないということなのを見てはおりますけれども少し設定方法ちょっとどのような説明方法がいいのか。
1:31:13	は、
1:31:15	そうですね、少し補強を考えたいなと思います。
1:31:20	はい。規制庁、佐口です。
1:31:22	わかりました。どういうふうに設定しているのかっていうのは一応、わかりましたので少し補強していただいて、
1:31:29	あと例えば、先ほど盛さんから、別々の
1:31:34	場合でもちょっと確認はしてるみたいなの、あったので、もしそういうのもあったら、ちょっと書いていただいてです。
1:31:39	補強していた
1:31:40	ます。
1:33:31	規制庁サグチですけども、
1:33:33	ちなみにウェブWebシステムというか、参加されているニシキさん、何かあります。
1:33:43	木内ニシキですけども、私どもからは、異議ございません。
1:34:40	規制庁佐口ですけども、
1:34:43	今日、幾つか私の方から確認させていただいて、
1:34:48	追記修正等、
1:34:50	していただくことになると思いますけれど
1:34:54	当然
1:34:56	これかなり、かなりというか、結構前にいただいていて、
1:35:03	その間に会合があったりなんかをしてですね、そのコメントもっていうのも当然確認をさせていただきましたし、
1:35:12	やっぱり資料がなかなかボリュームがやっぱり多いところもあってですね、
1:35:20	当然引き続き、私たちの方でも引き続き確認をしていきますので、今回のヒアリングでの確認、
1:35:31	あの修正とか、
1:35:33	ずいきを通していただいて、また、
1:35:37	それができ次第ですね、またご連絡いただければと思いますので、
1:35:42	特に、もうこちらカラー確認がなければ、何か中部で電力の方から確認とかがあれば、
1:35:53	お願いします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:54	お待ちください。
1:36:02	規制庁の名倉です。ちょっと私の方から1点確認なんですけれども、
1:36:09	これ以前から資料としての構成として入っていったのかもしれないですけど1ということで、
1:36:16	防波壁とかの使用学校書いてあるんですけど、
1:36:25	今回基準津波を決めるための
1:36:30	所長の甲斐関野。
1:36:33	解析の条件としては防波壁のところは、無限高さの境界条件を設けているんですけど、
1:36:40	その条件下で1であえて
1:36:43	防波壁の仕様を説明してるんですが、これはちょっとどういう意味なのかというのがちょっとわかりかねるところがあるんですが、
1:36:53	はい。中部電力天野でございますこちらにつきましてはもう、審査開始当初から、要は貿易の構造が津波評価の中で参考として必要な情報ですということで、
1:37:06	記載をすべきというコメントをいただきまして、当初から、要は一番最初から載せるの市場に乗っかっているという位置付けになりますんで、
1:37:17	今後、基準津波等が決まっていく中でまた、
1:37:22	必要なことがあれば、変えていくんですけど現時点にはまだ来、津波高も決まっていないのでそのまま掲載させていただいているという位置付けでございます。
1:37:41	わかりました。
1:37:43	ということは防波壁の構造として、
1:37:49	中部電力としては22.7メートルという今高さなんだけど、
1:37:54	これに関して22メートル。
1:37:58	というのはまだその、
1:38:00	暴排液をどうするかっていうところの検討まではしていないので、これは初期条件として、
1:38:07	こういうことを、審査の開始時点では考えていましたよ、もしくはこれが現状の構造ですよということで、
1:38:15	単にここに協議しているだけという、そういう理解でよろしいですね。これが何か意味を持ってるというかそういうわけではないと。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:23	はい。中部電力天野でございます。今名倉さんもおっしゃられた通りで、もう冒頭から申請当初ぐらいからずっと、津波とその対策ということで
1:38:36	掲載させていただいているだけでそこ、今後のことは、基準津波が決定してからになると思います。
1:38:48	部分、
1:38:49	中部電力ナカガワですが、前提条件として溢水防止液のところとかに入ってくる、その水防収益のところでの箱っていうふうなものも、
1:38:59	評価をしているところもあるので、そその形としての前提。
1:39:04	条件っていうところはあるとは思いますが、名倉さんのおっしゃるように、高さとかそういったことについて、
1:39:13	今、今現時点でのこだわりというのではなくて初期条件というそういう位置付けだと思います。
1:39:24	規制庁の名倉です。わかりました。僕は防波壁の高さに関しての使用っていうものに関しては初期使用を考えているものであって今後の
1:39:33	方針を示唆するものではないと、それから阿藤取水槽溢水防止へきというものについても、そういうものを設置するということの、
1:39:44	ということは初期セットとして考えているので敷地への浸水防止という観点で、そもそも設置をしているので、
1:39:54	そういったところも一応踏まえた上での、
1:39:57	評価を今してますと、ということで理解をしました。はい。この
1:40:04	防潮駅、それから取水槽、
1:40:08	の溢水防止駅も含めて、その市、設計の方針としての構造仕様に関しては、これは地震津波側の審査を踏まえてそのあとに検討を事業者がすることになっていると。
1:40:21	ということで、現状、初期条件としてこういう小方針で考えてますと。
1:40:27	いうところを前提として記載したということで理解しました。以上です。
1:40:41	はい規制庁佐口ですけど。
1:40:44	すいません
1:40:46	まだこちらから確認が、
1:40:49	一通り、
1:40:51	大丈夫なようでしたら、もし何かあれば、中部電力側から
1:40:56	はい。中部電力天野でございます。今日、ご確認いただいた事項で

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:03	記載の適正化だとかもう少しわかりやすい表現というところ、しっかり整理をして参りたいと思います。特に前回の審査会合では、
1:41:13	長年衛藤議論させていただいておりましたライズタイム 60 秒と滑りを 37 メーターという一番大きな議論について、
1:41:23	ご議論させていただいたんで今回本当に漏れがないようにということで、ちょっと最初に佐口さんから言われた通り、どの辺りをこう変えてきましたよっていうのを冒頭にわかりやすく説明できるようにしてで、
1:41:35	あと、後ろの方にそれがこういう形で入り込んでますっていうのが、
1:41:41	前段読んでいただければ、どこが変わっているかを、特に資料も厚くなってますので、なるべくそういうところがわかるような構成で改めて作成してまたヒアリング申し込みたいと思います。よろしく願いいたします。
1:42:21	規制庁の名倉です。
1:42:23	中部電力の資料ってのは非常に昔からそうですけど大部に渡っていると。
1:42:29	ということとあと審査の経緯でいろいろあって、あったと言うこともあると思うんですが、
1:42:38	前回から今回んの、前回の会合から今回の会合、今回やることに多分なると思うんですが、会合の間の、
1:42:47	多分ギャップが大きい。
1:42:49	ということもあるので、こちらからどういうコメントを受けて、それに対してどういう設定をどう変えて、その結果として、最終的な評価の結果が、象徴的な部分、特に 10 強調しないといけないところとしては、
1:43:04	津波高さの評価としてどう変わったのか。
1:43:07	それがちゃんとコメントの趣旨を踏まえたものになっているのかというところですね。
1:43:13	全体像の整理がちょっと必要かなと。
1:43:16	それをちゃんと説明できることが、今回の多分説明で非常に重要になると思うので、その整理をちょっと重点的にしていただければと思います。
1:43:28	保全力ものでございます承知いたしました。
1:43:33	はい。規制庁佐口ですけれども。そうしましたらこれもちまして本日のヒアリングを終了させていただきます。どうもありがとうございました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。